

## 中学校数学 第1・2学年

各学年共通した課題		文字を用いて式に表現したり、式の意味を読み取ったりすること 文字を用いた式の四則計算をすること	
学年	設問	設問のねらいと問題の概要	正答率(%)
1	大問2 ⑩	○ 不等式の表す意味を読み取ることについての思考・判断・表現	27.7
2	大問2 ⑥	○ 式の値を求めることについての知識・技能	52.6

### — 復習のポイント — 中学校第1・2学年の皆さんへ

○ 第1学年での文字を用いた式の学習、それに続く方程式の学習は、中学校数学科の全ての学習内容と深い関わりをもつとともに、それらの基礎をなすものとしてたいへん重要です。まず、式を書くときの約束、式による数量の表し方、式の表す意味を読み取ることについて、繰り返し学習して定着させましょう。その上で、式の値の求め方や1次式の計算、関係を表す式(等式、不等式)、1次方程式についてそれぞれを丁寧に進めていくとよいでしょう。

例えば、上の[問題]では、不等式の意味を読み取ることが問われています。最初に、 $x - 5n$ の意味をつかむ必要があります。式を書くときの約束、式による数量の表し方、式の表す意味を読み取ることを全て理解できていないと、読み取りができません。また、不等号( $<$ 、 $>$ 、 $\leq$ 、 $\geq$ )の意味を理解しておくことが大切です。左辺と右辺の関係を読み取るときに、例えば、「以上」なのか「より大きい」のかでは、意味が大きく異なってしまいます。

○ 第1学年では、一つの文字についての1次式の四則計算を学習します。その上で、第2学年では、いくつかの文字を含む式の四則計算を学習します。その際、第1学年の内容と比べて、何が同じで、どこが異なるのかといった点を確認しながら学習を深めたり、広げたりすることがポイントです。

例えば、学力診断のためのテスト(第2学年)では、次のような問題が出題されました。

$a = 3$ 、 $b = -2$ のとき、式  $18ab^2 \div (-6ab) \times (-2a)$  の値を求めなさい。(通し番号⑥)

第2学年では、式の値を求めるとき、「式を簡単にしてから数を代入する」という方法を学びます。この方法は、第1学年までの学習にはなかった式の値の求め方です。このことから、式を簡単にするために、いくつかの文字を含む式の四則計算は有効であり、大切な計算の技能だと確認しましょう。

○ 数学では、一つ一つの学習がつながっているので、正答できなかった原因を探り、前に戻って学び直しをする機会をもつようにしましょう。また、定着のためには、教科書の章末問題や、巻末の補充問題を活用して定期的に復習することも大切です。上記では取り上げていませんが、正の数と負の数の四則計算、1次方程式の解き方、等式の変形、連立方程式の解き方なども含めて、基本的な計算技能を磨いていきましょう。